

( 鏡わかあゆ高等支援 ) 学校 令和7年度(2025年度)学校評価表

<b>1 学校教育目標</b>
目標に向かって挑戦し、自分らしく輝き、社会の一員として心豊かに自立した生活を送ることができる生徒を育成する

<b>2 本年度の重点目標</b>
<p>ア 学校運営の基礎基本の確立と継続的運用へのシステムづくり（総務、情報教育、寄宿舍）          生徒の学習環境、教職員の労働環境の整備 PTA組織の充実 職員の連携構築          保護者や関係機関との連携 地域に開かれた学校（CS） 寄宿舍運営の充実 情報発信          校務の情報化</p> <p>イ 各教科等・自立活動の充実、鏡わかあゆ型授業の創造とカリキュラムマネジメント（教務・          授業改善）          「分かった・できた」と学ぶ楽しさを実感できる授業づくり          鏡わかあゆ型授業づくり          （指導形態 授業の流れ 評価の観点 教材研究 等 授業改善のPDCAサイクル構築）          根拠のある教育活動 育てたい資質・能力一覧表作成          （年間指導計画 個別の指導計画等に基づく授業の実施、評価、改善 カリキュラムマネ          ジメント）          個別の指導計画等諸計画の効率的な作成と効果的な活用 人権教育の推進 体力の向上</p> <p>ウ 職業自立、社会自立を目指した進路指導の充実（進路指導）          発達段階に応じた組織的・系統的なキャリア教育の充実 自己理解と職業理解          組織的・計画的な進路指導体制の構築 新規現場実習先・就労先などの開拓 卒業後の          アフターケア</p> <p>エ 安全・安心な学習環境の確保          （総務、保体、危機管理安全、環境整備、生徒指導、生徒支援、情報教育、事務、寄宿舍）          危機管理体制の構築（危機管理マニュアルの作成、危機回避能力の育成、各種訓練の実施）          いじめ防止の徹底と早期発見・早期対応 情報モラル教育の充実 登下校を含む交通安          全指導の実施 生徒の健康管理・体力向上 発達指示的生徒指導の充実 組織的な生          徒指導体制の構築 生徒会活動や同好会活動の活性化 校舎内外の環境美化と整備</p> <p>オ 地域との交流及び共同学習の推進とセンター的機能の発揮（地域支援・交流、総務）          近隣校や地域住民との交流及び共同学習の計画、実施 地域資源を活用した学びの充実          特別支援教育に関する教育相談などへの対応</p>

3 自己評価総括表						
評価項目		評価の観点	具体的目標	具体的方策	評価	成果と課題
大項目	小項目					
学校 経営	業務改善 および働 き方改革	教職員の労働環境の整備	・ 正規の時間以外の従事時間を、最も多い超過者でも、最大月80時間までに減らす。	・ 該当者とは定期的に面談を行い、業務内容の確認を行う。面談を踏まえて業務の見直しを行う。	A	○ 正規の時間以外の従事時間月80時間以上は1回もなく、作業時間が必要な職員には、学科で対処することができた。
	安全・安心な学習環境の確保	職員の資質向上研修等による、より安心できる学習環境整備	・ 人事評価面談等を通して、研修受講の奨励を行い、職員の資質向上を図る。	・ 研修受講を通して教職員としての基礎的な知識の向上を図り、さらに学校運用参画の意識が持てるよう、面談の中で働きかける。	B	○ 正規の時間以外の従事時間を減らすことで研修受講等の余裕を生み出すことができた。 ● 数名の職員とは面談等で職務内容の希望等の話をできたが、働きかけが十分とは言えなかった。
		管理体制整備によるより安全な学習環境整備	・ 報告、連絡、相談をスムーズに行える体制をさらに推	・ 総務会等での密な連絡や、各科での報告、連絡、相談の徹底を促すとも	A	○ 定期的に情報共有の時間を十分に確保し、その都度問題に対処することができた。

			進する。	に、データの共有を進めて、さらにスピード感のある管理体制を目指す。		
授業の充実	教科研修	新学習指導要領に即した授業づくりの充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校全体で授業づくりの土台を整える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校全体で月1回教科研修を行い、担当間で授業づくりや授業内容の確認を行う。学期に1回は、授業計画や内容、評価についての確認、T1、T2の動き等の振り返りを行う。</li> <li>授業の基本についての研修を行う。</li> <li>T1、T2の役割を明確にし、チームで授業づくりを行う。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>○月1回教科研修を行い、学科や教科担当のグループで授業準備等に活用することができた。学期末には、全体で行う教科を中心に授業計画や内容についての振り返りを行い、次の学期につなげる準備を行った。</li> <li>○授業の基本について講師を招聘し、研修を行った。</li> <li>●T1、T2の役割を示したが、実践につながらない教科もあった。</li> </ul>
	授業改善	重点目標の具現化をめざした、授業実践の充実と専門性の向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>校内の研修で学んだことを実践し、振り返りを行いながら授業改善を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>月1回テーマを決めて授業充実研修を実施する。</li> <li>授業交流月間を年に2回実施し、学科間で互いの授業を参観して学び合い、自分自身の授業実践へつなげる。</li> <li>学科、学年ごとに授業の流れを意識した授業づくりを行い、年に2回、事前研修・研究授業・授業研究会を行う。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>○外部から講師招聘をしての研修を2回、校内でも各月テーマを決めて研修を行うことができた。</li> <li>○前期、後期の2回お互いの授業を参観する授業交流月間を実施することができた。</li> <li>○研修で学んだことを取り入れながら、各学年、専門教科のグループで教科、自立活動、専門教科の研究授業を2回ずつ行うことができた。</li> <li>●それぞれが授業をしているため、参観の時間の確保が難しかった。</li> </ul>
キャリア教育(進路指導)	学校として一貫性を持ったキャリア教育の推進	学習内容の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>キャリアパスポートの活用によりキャリア教育の充実を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>3年間を見通し、主体的に学びに向かう力を育成できるよう、計画的にキャリアパスポートを活用する。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>○各科・各学年で計画的にキャリアパスポートの作成・活用を行うことができた。</li> <li>●今後、デジタル化等、より効果的な活用に向けて検討していく必要がある。</li> </ul>
		情報の共有	<ul style="list-style-type: none"> <li>校内で一貫した進路指導を実施できるように教職員間で現場実習や進路指導に関</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「現場実習ガイドブック」や「進路指導マニュアル」等の作成及び活用を行う。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>○「現場実習ガイドブック」を活用して職員間で共有しながら現場実習を実施することができた。</li> <li>●これまでの様々な</li> </ul>

			する情報共有を行う。			進路指導関連のマニュアルを精選し、現在、「進路指導マニュアル」を作成中である。
	生徒のニーズと実態に応じたキャリア教育の推進	ニーズに応じた進路指導の充実と実習先の検討	<ul style="list-style-type: none"> <li>進路希望調査及び三者面談等の充実を図り、関係職員間で情報共有を行う。</li> <li>企業や福祉事業所向けに本校教育や実習受入等に関する理解・啓発を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒の進路ニーズに関するデータ整理と一括管理を行い、実習先や進路先の検討会を実施する。</li> <li>授業参観等が充実するよう、開催時期を考慮し、「企業・福祉事業所向け学校公開」を開催する。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>○本人・保護者の希望を丁寧に確認しながら、進路先検討会を行い、現場実習先の決定を行うことができた。</li> <li>○学校公開では、170名を超える方々に参加いただき、カフェで生徒が接客する様子等、生徒の活躍する姿を見ていただくことができた。</li> </ul>
	関係支援機関と連携した移行支援及びアフターフォローの充実	関係支援機関との連携	<ul style="list-style-type: none"> <li>関係支援機関と連携した移行支援及びアフターフォローの充実を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>在学中から関係支援機関と計画的に生徒に関する情報共有を行うとともに、卒業生のデータ整理を行う。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>○関係支援機関と連携しながら卒業生のアフターフォローや移行支援に取り組むことができた。</li> <li>●今後、更にアフターフォローの記録や卒業生のデータ整理を行う必要がある。</li> </ul>
生徒(生活)指導	生徒指導及び問題行動等への対応	生徒心得の整備	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒、保護者、学校の三者で生徒心得の見直しを行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒心得に関するアンケート等により、意見を集約する。</li> <li>校則検討委員会を実施し、点検及び改定を行う。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>○すべての生徒、保護者、職員を対象としてアンケートを実施した。集約した意見を各代表者で組織する校則検討委員会で協議し、校則見直しの主旨を踏まえた取組をすることができた。</li> <li>●アンケート作成、実施の時期を早め、校則検討の話し合いを充実させたい。</li> </ul>
		予防的指導の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>ルールやマナーについて考え、それらを遵守する態度を育てる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>月1回、生活目標の掲示と生徒指導通信の発行により生徒心得を周知する。</li> <li>学期初めと学期末に集会を行い、長期休業中の生活について注意喚起する。</li> <li>学期1回の講師招聘授業の実施や、生徒指導部より、未然防止の授業を提案し、意識付けをする。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>○生活目標の提示と生徒指導通信の発行(年11回)を行った。</li> <li>○学期初めと学期末に(年6回)、生徒の様子等を踏まえ、ルールやマナーについて注意喚起を行った。</li> <li>○1学期にスマホ安全利用、2学期に薬物乱用防止、3学期に性暴力未然防止について講師招聘授業を実施した。また、闇バイト等のSNSに係る問題については1学期に全クラスで</li> </ul>

						未然防止の授業を実施した。
		組織的な指導及び指導体制の構築	<ul style="list-style-type: none"> <li>組織的に対応することを徹底し、生徒一人一人に応じた指導を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>問題行動等対応マニュアルに沿って迅速かつ丁寧に対応する。</li> <li>指導方針や指導内容を職員間で共有して、指導にあたる。</li> <li>定期的に継続した指導を行い、生活における定着を図る。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>○事案発生後、対応を進めた。担任だけでなく、学科をこえて適当な人材が指導に当たることでよりの確な指導を行うことができた。</li> <li>○対象生徒の実態を踏まえて指導計画を作成し、関係職員で共通理解を図って対応することができた。</li> <li>●スマートフォンに関連する事案は、問題行動を繰り返す事案があった。継続した指導の工夫や保護者啓発が必要である。</li> </ul>
人権教育の推進	命を大切にすることを育む指導	自分の大切さ、他の人の大切さを認め行動する意識の向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>互いを認め、支え、高め合う態度を養う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>全校集会やHR等で人権や自他の大切さ等について、共に考える機会を設定する。</li> <li>ポスターやチラシを配付したりホームページに掲載したりし、日常的に生徒や保護者の目に触れるようにする。</li> <li>人権問題学習に取り組む時期を設定し、お互いの良さや命の大切さ、多様性を認めること等についての学習を実施する。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>○人権集会を実施し、誰もが安心できる学校となるための具体的な行動等について、各クラスで話し合う活動を設定した。全クラスの意見を掲示し、シールやコメント等でお互いに返しを行ったことで、様々な意見に気づき、人権について意識するきっかけを作ることができた。</li> <li>○水俣病、部落差別等の人権課題について、生徒の実態に応じた学習を実施した。専門2年は菊池恵楓園での校外学習を実施した。</li> <li>●ホームページ等での情報提供が足りず、保護者への啓発は課題が残った。</li> </ul>
	生徒の人権を尊重した教育	生徒の人権を尊重した教育活動の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>人権教育の視点を大切に授業づくりと、安心して学べる学習環境づくりの充実を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>年間計画や人権教育の指導方法等の在り方について教職員研修を行う。</li> <li>人権感覚自己チェック、人権教育アンケートを実施し、教職員が自らの人権感覚について見直し、改善を図る機会を定期的に設ける。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>○年4回の教職員研修を実施した。うち1回は講師を招聘し、近年大きく変わった部落史について、職員の理解を深めることができた。</li> <li>●人権教育アンケートで出た職員の意見を全体で共有し、研修と合わせて改善を図ったが、それぞれの人権感覚の差が見ら</li> </ul>

						れた。生徒・職員ともに大切にされるよう、具体的な行動目標を検討し、共有する場を設けていきたい。
いじめの防止等	いじめ問題の未然防止・早期発見・早期対応	組織的かつ継続的な対応	<ul style="list-style-type: none"> <li>いじめ問題に対する職員一人一人の感度を高め、いじめ未解消ゼロを実現する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>職員研修や学科会でいじめ問題の捉え方、組織的な対応、解消に向けた取組等について共通理解を図る。</li> <li>いじめ防止等対策委員会で定義に沿って正しく認知し、経過を注視しながら適切な対応に努める。</li> </ul>	A	○夏休みにいじめに関する職員研修を実施し、聞き取りの方法や指導について共通理解をした。今年度、いじめと認知した事案の累計数は32件である。職員一人一人及び学校全体としての感度が高く、組織として適切な対応ができていると考える。解消に向け継続的に支援をしている。
		丁寧な実態把握と情報共有	<ul style="list-style-type: none"> <li>定期的にアンケートを実施し、相談体制及び支援体制を整備する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>2か月に1回アンケートと個別面談を実施する。</li> <li>適宜、校内及び外部（スクールサイン等）の相談窓口を周知する。</li> <li>情報集約担当者を起点とした情報共有体制をつくる。</li> </ul>	B	○年4回のアンケートを実施した。生徒たちはアンケートや面談等で相談してくれる事例が多くあり、相談しやすい環境が整ってきている。 ●情報集約担当者への報告のタイミング等、全体へ周知し整備する必要がある。
		生徒の実態に応じた取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒会を中心に、生徒を主体とした取組の充実を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「いじめ防止5箇条」の作成及び啓発、「いじめ防止標語」の呼びかけ等を行い、いじめを許さない環境をつくる。</li> </ul>	A	○生徒会を中心に、「いじめ防止5箇条」を掲げ啓発を行った。また標語やポスターを作成し、全校生徒にいじめ防止を呼びかけることができた。
地域支援	教育的ニーズに応じた支援の充実	校内支援体制の構築	<ul style="list-style-type: none"> <li>各学年・各学科のニーズに応じて、ケース会議や校内支援員会等を実施する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>校内支援体制の流れについて学科会等で説明し、ケース会議や校内支援委員会について周知する。</li> <li>学科であがった個々のニーズについて、ケース会議等での対応が必要か、それぞれの科において地域支援交流部職員が確認をして対応する。</li> </ul>	A	○学級、学年での対応が難しいケースにおいて、校内支援委員会を開き役割分担をすることで、それぞれの立場で何をするのかが明確になり、組織として対応ができた。 ●職員の意識として、校内支援委員会に挙げることのハードルが高いように感じる。
		関係機関との連携	<ul style="list-style-type: none"> <li>教育的ニーズに応じてSSWやSC等の関係</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>特別支援教育コーディネーターが窓口となり関係機関との連携</li> </ul>	A	○専門学科の学年主任が地域支援交流部員でもあることで、SCの活用が必

			<p>機関と連携し、支援の充実を図る。</p>	<p>調整を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・SC活用事業を活用して、年15回程度のカウンセリングを実施する。</li> </ul>		<p>要な生徒の見守りができ、適切にSCにつながることができた。また、担任からSSWへの相談内容を詳しく伝え、担任とSSWをつないだことで、保護者への支援体制を整えた。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●SCとSSWの活用（相談内容や事前事後の生徒への対応）について、担任への啓発の必要性を感じた。</li> </ul>
地域における特別支援教育の推進	八代地域特別支援連携協議会への参画	<ul style="list-style-type: none"> <li>・八代地域の特別支援教育総合推進事業計画に基づき、特別支援教育推進のための研修運営を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・八代地域特別支援学級担当者指導力向上研修を八代地域特別支援連携協議会と連携して実施する。</li> <li>・小中学校や高等学校等からの依頼に対して、特別支援教育コーディネーターで相談に対応する。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>○研修や巡回相談等で、現場の先生方の悩みや授業づくりに携わることで、八代地域の特別支援教育における現状と課題を知ることができた。また、他の巡回相談員と連携し各研修や会議等で巡回相談員の活用について話してもらうことで、本校の巡回相談員の活用も広く意識していただけたような働きかけができた。</li> </ul>	
	地域への理解啓発	<ul style="list-style-type: none"> <li>・近隣の学校や地域との交流及び共同学習を通して、特別支援教育や本校教育に対する理解啓発を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・普通科や専門学科の特色を生かした交流及び共同学習を行う。</li> <li>・掲示板を活用し、地域に学校の情報を発信する。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>○数年の計画で、八代農業高等学校との学校間交流をする計画ができた。</li> <li>●今後の展望について示しながら、両校の職員の学校間交流についての意識を高めていく必要がある。</li> </ul>	
地域連携(コミュニティ・スクールなど)	地域とともにある学校づくりの推進	関係機関との組織的な連携	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校運営協議会において、現在の本校の課題を共有しスムーズな連携を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・参加をしていたいている各方面の関係者と昨年度からの課題を会議で整理して共有し、連携を強めて取り組む。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>○より自由に学校のことを観ることができるよう、授業参観や行事を案内した。</li> <li>○防災について、地域や八代市から意見をいただくことができた。</li> </ul>
	防災等の危機管理体制の充実	関係機関と連携した取組の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本校の実態に応じた避難訓練を実施する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・定期的な避難訓練を実施し、全生徒・職員の意識向上を図る。</li> <li>・年度始めに地震・津波避難訓練を実施し、1次2次避難の経路等を全生徒・職員で確認する。</li> <li>・訓練後の反省を</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>○2学期の避難訓練では、防火扉が作動した状態で実施し、意識の向上を図ることができた。</li> <li>○シェイクアウト訓練で初動の動きを確認した後に避難訓練を実施。全生徒・職員ともに経</li> </ul>

				もとにマニュアルを修正する際には、関係機関のアドバイスを取り入れる。		<p>路の確認をすることができた。</p> <p>●災害時、生徒の保護者への引き渡しについて、保護者車両の構内進入経路の再考が必要。</p>
保健安全指導	健康の保持増進	体力向上と、運動に取り組む意識の向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>・運動に意欲的に関わることができる意識と体力を育成する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・体育の授業において、ランニングや球技等様々な種目を選定することで運動に対する意欲をもたせ、体力の向上を図る。</li> <li>・新体力テストを実施し、生徒自身が記録することで、自らの体力を把握したり、昨年の記録と比較したりする機会を設け、意欲の向上を喚起する。</li> </ul>	A	<p>○普通科・専門学科共に授業内容に工夫をすることができた。12月末の運動に関するアンケート結果では、体育の授業が楽しい・どちらかというが好きと回答した生徒が80.9%と高い結果を出すことができた。</p> <p>○個別指導用データを基に生徒たちで自己分析をすることができ、運動の意欲向上につながった。</p> <p>●柔軟性や瞬発力などの、個々の運動能力向上への継続的な取組が難しかった。</p>
		健康教育の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>・性に関する授業の充実を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・性に関する指導の年間計画を作成して実施し、見直しを行う。</li> <li>・他の分掌部と連携し、性に関する生徒向けの講話を実施する。</li> <li>・講師を招聘し全生徒向けの研修の機会を作る。</li> </ul>	A	<p>○性に対して、生徒の興味関心が高く、生活場面で人との距離間を意識するなど、授業内容を汎化する場面が見られた。</p> <p>○7月に産婦人科医を招聘し、性に関する講話を実施した。内容や方法について事前に講師と打ち合わせを行い、82.5%の生徒からわかりやすかったとの回答を得た。</p> <p>●授業だけでなく、日常生活の場で繰り返して指導をしていく内容（距離間、身だしなみ、トイレの使用等）を明確にして計画する。</p>
	安全な学校環境づくりの推進	校舎内外の環境美化や整備の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校版環境ISOの取組を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・環境美化委員会を中心に、本校で取り組むISOの行動内容についてアンケートを実施する。決定した項目について呼びかけるポスターや標</li> </ul>	A	<p>○美化委員会での取組についてのアンケート調査も実施した。各項目、9割前後の人が意識して取り組むことができたとの回答が得られた。</p> <p>●各教室にポスター</p>

				語を作成し、校内に掲示する。年間を通して、校内の美化活動に取り組む。		の掲示はしたが、意識を高めるためには、取組への定期的な呼びかけが必要だったと思う。アンケート調査にも、声掛けの必要性が挙げられていた。
			・生徒、職員で環境美化や整備へ取り組む。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒、職員が一体となって活動する日常行う掃除を毎日実施する。</li> <li>・職員掃除の担当者及び担当場を検討し毎週実施する。</li> <li>・長期休業を利用して職員作業を計画・実施する。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>○各学科、毎日の掃除時間に、各担当場所の掃除を確実にできている。</li> <li>○週1回の職員掃除では、周知カードを配付して掃除忘れを防ぐようにした。</li> <li>○夏期休業中の職員掃除は、大雨のため急遽復旧作業になったが、事前に校内を見て周り計画・周知・指示ができ、スムーズに進めることができた。</li> <li>●運動場の草取りは、暑い時期を避けて、運動場での活動が始まる9月10月の前に行っていく。</li> </ul>
			・職員、保護者、来賓が安心して駐車できる駐車場管理を行う。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・職員、保護者、来賓それぞれの駐車場を割り振り、運用計画を立てる。</li> <li>・校内で事故が起きないように、校内での進行方向や制限速度等啓発する。</li> <li>・駐場所変更の連絡は前日までに朝会や職員室掲示等で早めに連絡する。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>○文化祭の時の保護者駐車場は、グラウンドにラインを引くことで、200台は駐車できるようにした。当日、予想よりも台数がオーバーしたが、対応することができた。</li> <li>○正門に一方通行の地図と案内板を設置し、保護者や業者の方々に統一した校内の通行を促すことができた。</li> <li>○職員駐車場が変更になるときは、2日前から職員室に掲示できた。</li> </ul>
情報教育	ICTを活用した教育の情報化の推進	情報及び情報機器の管理体制の構築	<ul style="list-style-type: none"> <li>・情報機器の安全と維持管理のため、定期的な点検と管理体制の確実な周知に取り組む。</li> <li>・新しい情報セキュリティの周知・</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・情報機器の貸出簿を運用し月に1回点検を行う。また、Googleカレンダーを用いて管理体制を構築し、管理の徹底を行う。</li> <li>・新文書保存システムに関する新</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>○情報機器の貸出簿や管理表を、月に1度点検することができた。また、Googleカレンダーを活用した機器の管理では、重複貸出を未然に防ぐことができた。</li> <li>●機器の紛失や故障</li> </ul>

			徹底を行う。	しい情報セキュリティについて情報提供と研修を行う。		が相次ぎ、管理には課題が見られる。 ○新文書保存システムについては、情報教育研修を3回行い、情報セキュリティに関する内容の研修も実施することができた。
		授業や校務におけるICT活用の推進	・校務の情報化の充実への環境整備を行い、ICT活用の推進に伴う職員研修を実施する。	・クラウド活用モデル事業への校内体制を確立し、校務の情報化の充実に向け試験運用のデータをまとめる。また、新たな情報ツールの研修を実施し、授業の充実を図る。	A	○夏季休業期間にクラウド活用モデル事業（新文書保存システム）の運用データをまとめ、教育政策課へスムーズに報告ができた。また、それに伴う拡張機能（演習セット）の研修を実施することもできた。
		学校に関する様々な情報の提供	・「開かれた学校」を目指した本校ホームページを発信する。	・「学校アルバム」等日々の教育活動を外部に知らせるため各学科、最低月3回は情報をアップする。また、HP内のメニューを整理し、学校ブログの更新やカフェの案内などを適宜発信する。	A	○学校ホームページについては、専門学科及び普通科の情報について、月に5回以上の更新を行った。また、熊本県教育委員会のホームページ「フォトニュースへ」への投稿も行い、外部への情報発信も意欲的に行うことがた。
寄宿舍指導	安全・安心な生活環境の確立	安全・安心な生活環境の確立	・舎内でのルールやマナーを守るとともに日常生活の充実を図る。	・毎学期、「舎生のしおり」でルールやマナーを確認し、動機付けを行う。 ・棟会や棟代表者会を充実させ、生徒の主体的な寄宿舍生活を促す。	A	○点呼や全体の集会時を利用し、ルールやマナーについて話す機会をつくった。 ○棟会や棟代表者会において、生徒の意見や要望等を聞くことで生活の充実を図った。
			・連絡会において、職員間で、リスクマネジメント及び危機管理意識の統一を図る。	・避難訓練及び安全点検において、現状と課題を把握し、緊急時対応マニュアルや危険箇所等の改善を図る。 ・毎日の健康観察で生徒の心身の状態を把握し、対応が必要な場合は、保護者や担任、寮務主任及び管理職等と連携を密にとる。		B

#### 4 学校関係者評価

学校に対する総合的な評価は、保護者、職員ともに概ね高い評価をいただいている。保護者からは全体的にどの項目でも同じように数ポイント下がり気味であるが、これは昨年の回答率43%から今年度は83%と、ほぼ倍増になっており、今年度はより正確な数字が出ているためだと考える。学校運営協議会委員の皆様からも高く評価していただき、皆様からいただいた御意見は以下のとおりである。

- ・地域で生徒たちの登校を見ていると、生徒たちは楽しそうに帰っていく。地域としてもとてもうれしいことである。
- ・わかあゆカフェの実施や地域環境整備等、年々上達している。次年度以降も継続して取り組んでほしい。
- ・進路指導について、とても一生懸命先生方が取り組んでいる。とても大変な業務だと思うので、先生方の負担が心配である。
- ・防災について様々な取組がなされている。今後は自分で考えて判断する力も必要になってくると思う。
- ・学校として、きちんと生徒一人一人のことを考えた指導、教育、取組をされている。

#### 5 総合評価

- ・学校評価における評価項目全33項目のうち、「よくできている」とするA評価は24項目、「だいたいできている」とするB評価が9項目であった。
- ・働き方改革では、全体的に正規の勤務時間以外の従事時間を少なくしようという雰囲気が醸成されつつあり、職員一人一人が意識的に取り組むことで例年に比べ正規の勤務時間以外の従事時間を少なくすることができた。
- ・進路指導では、進路指導に携わる職員を増員したことで負担軽減と進路指導の充実につながった。
- ・生徒指導では生徒指導部が積極的に動き、学年全体や学部主事等と密に連携をとることで、生徒の成長につながる指導支援を行うことができた。
- ・学校の防災、防災教育に力を入れ、例年どおりではなく様々な状況に応じた避難訓練を行うなど、積極的に様々な視点で取組を充実させることができた。
- ・毎年行っている外部講師を招聘しての授業や、校外での活動等を各科・学年で計画的に実施し、さらに地域と連携した取組を新たに始めるなど、積極的に体験的な学習に取り組むことができた。

#### 6 次年度への課題・改善方策

- ・アンケートでポイントが低かった交流及び共同学習については、交流が途絶えていた高等学校との交流を再開しようと、今年度は職員間での授業参観交流を行った。次年度以降、生徒同士の交流の方法について模索していく予定である。
- ・さらに正規の勤務時間以外の従事時間を減らすために、業務の平準化を図っていく。分掌部編制の見直し等を行い、業務の偏りを少なくしていく。
- ・職員の人権意識の向上について、不適切な言動そのものを少なくするための研修等はもちろんであるが、見聞きした場合にそれぞれの職員が注意しあったり、周りの職員に相談したりできるように、職場の良い雰囲気を作るための取組を行う。